

## 平成22年度 事業報告

### 1. 文化創造事業

文化創造事業については、市民の運営を基本とするアトリエ設置条例に基づき、市民力で感性豊かな文化芸術都市づくりを理念に事業活動を行ってきた。

個性的で創造性のあるアミーゴの施設と市民ディレクターの専門性を生かし、事業計画に基づいて事業活動を行った。また、事業実施に当たって「プラン推進会議」で計画を共有し、スタッフが協調して積極的に事業を行った。

#### [指定管理における文化創造事業]

- ① 「ひとつづくり」事業では、文化芸術に関心を持つ方、それを支えるスタッフなどを積極的に育てていく企画を行っている。2年目となる「アート倶楽部」は、アートに関する歴史や鑑賞法などを学ぶという企画で、本年は「仏像」をテーマに実施した。その他、事業実施に当たって音響や照明など裏方として運営に当たるスタッフが本番で作業するなどの活動を行った。
- ② 「魅力づくり」事業では、「のこぎり屋根の音楽会～アタヌンコンサート～」で気軽な音楽機会を提供し、「アミーゴライブ」「アミーゴ能楽座」など上質な文化芸術を鑑賞する機会を提供してきた。アミーゴ開館10周年の記念としてアミーゴ音楽アドバイザーである国府弘子さんのライブの公演を行った。地域内の武蔵野音楽大学との連携事業、地域産業である染織体験工房も継続して実施した。魅力あるアミーゴ、入間をアピールすることができた。
- ③ 「芽づくり」事業では、継続事業として「オペラ工房」、「ドラマ工房」などを実施した。オペラ工房は、昨年から一年かけて稽古練習に励んできた公募市民による合唱団やソリストによるモーツァルト「魔笛」が上演できた。アミーゴに来館出来ない方にも成果を見てもらおうと、アミーゴ開館10周年の記念として「市産業文化センター」でも公演した。多くの方が係わって内容の濃いものとなった。子ども対象の事業として、当NPO法人の独自事業ではあるが、助成金を得て行った「わくわく体験クラブ アミーゴキッズ」、「遊び場アートスタジオ」では、文化体験、自然体験を通して互いを認め合う心を育んだ。
- ④ 「まちづくり」事業では、アウトリーチ事業として「狂言・落語の学校訪問」「公民館でコンサート・落語会」などを行った。本年は、例年より多くの要望があり、今までアミーゴで培った事業ノウハウを他施設に提供することができた。また、アミーゴが地域コミュニティの担い手として、「夏フェスタ」「秋まつり」の開催に取り組んだ。多くの人に関わることで参加者一人ひとりが文化芸術を通じたコミュニティの一員であることを認識した。特に、「秋まつり」では、地域の中のアミーゴをアピールし、文化芸術を通じた地域との関係づくりを重視して実施した。多くの方の来場があり成果があった。

## [法人独自の文化創造事業]

- ⑤ 指定管理業務としての文化創造事業のほか、本年度は多くの NPO 法人独自の事業を行った。

日本たばこ産業㈱の助成を得て「アミーゴキッズ」「遊び場アートスタジオ」事業、学校・公民館などへの狂言、音楽、落語のアウトリーチ事業、地域の魅力づくりのため「楽笑寄席」、開館 10 周年記念事業として市民オペラ「魔笛」の産業文化センターでの公演などを開催した。

## 2. 文化創造アトリエ施設管理事業（指定管理事業）

- ① 来館者、利用者の安心安全の確保とアメニティー空間を確保するため、施設の修繕、備品の補充に努めた。また、館庭美化のため、ガーデンボランティアによる活動を行った。
- ② 市民ニーズに対応した窓口サービスを心がけ、利用率の向上に努めた。

※施設の利用状況や修繕の内容は別項にて報告する。

## 3. 各種会議などの開催報告

※別紙にて報告。

## 4. その他活動報告

- ① アミーゴ開館 10 周年記念式典開催（2011/2/5）  
本年度は、アミーゴ開館 10 周年に当たり、記念式典を開催した。木下市長はじめ来賓者と NPO 法人会員の参加によって行われ、開館までの歴史、10 年のあゆみを紹介した。
- ② 会員交流会の開催  
2 回の交流会を実施した。
  - ・ 5/25（火）総会終了後に開催。事業のプレゼンテーションを行った。
  - ・ 12/15（水）ミニコンサートの鑑賞の後、交流を行った。
- ③ 広報紙「赤いのこぎり屋根」を年 4 回発行した。
- ④ 江戸東京博物館にてスタッフ研修会を実施した。（2010/9/8）
- ⑤ 希望する団体などに施設及び運営の説明や懇談を行った。（別紙報告）
- ⑥ 自主事業でアンケート調査を実施した。（別紙参照）

本年度も文化芸術分野で多面的な事業が実施でき成果があったと感じる。アミーゴの会場は、ステージと客席が近く、親近感、一体感のある事業が展開でき、愛着の持てるまちづくりにアミーゴ施設が大いに役立つことが実感できた。また、同時に文化施設の存在意義は、事業参加者とのコミュニケーションを通して地域に支持されることが重要であることも認識できた。